



人は
自分の中に
作りあげた「牢獄」から
いかに自由に
なれるか



2004年ニューヨーク国際インディペンデント映画祭
〈海外ドキュメンタリー部門〉 最優秀賞受賞作品

監督・プロデューサー：坂上 香



<新型コロナウイルス感染症対策についてのお願い>

- *発熱、風邪症状など体調の悪い方はご遠慮下さい。
- *入場の際はマスクの着用、手指消毒をお願いします。

「ライフアーズ」

上映会&坂上香監督トーク

2022. 10/9(日)

13:30~15:30 (開場 13:00)

上映時間 91分 上映終了後トーク

会場：鳥取県立博物館講堂

Reaching For Life Beyond The Walls

LIFERS

LIFERS (ライフアーズ)
II
終身刑、もしくは無期刑受刑者



ライフアーズ——終身刑を超えて

2004/ドキュメンタリー/カラー/91分/ビデオ/日本 http://www.cain-j.org/Lifers/index_J.html

「社会復帰してゆく受刑者が、再犯しないように働きかけること。これが、殺人という取り返しのつかない罪を犯した自分にできることだと思う。」——レイエス・オロスコ (LIFERS)



2004年ニューヨーク国際インディペンデント映画祭
(海外ドキュメンタリー部門) 最優秀賞受賞作品

Reaching For Life Beyond The Walls

LIFERS

ライフアーズ——終身刑を超えて

★TV取材で出会った犯罪者の更生施設

TV番組の取材で、犯罪者の更生施設「アミティ」(米国拠点)を訪れてから10年になる。その間、様々な出会いがあった。罪を犯し、刑務所から出所し、社会の中で生き直そうとしている人たちとの出会いである。

社会復帰施設に暮らす薬物依存の若者、保護観察中のアーティスト、弁護士をめざして大学で学ぶ少女、カウンセラーとして研修中の人々……。その多くは十代前半で薬物に手を出し、他人に危害を加え、逮捕や服役を繰り返す「凶悪」な犯罪者だったという。しかし、私の目の前にいる彼/彼女らは、「凶悪」という言葉からは想像もつかないほど穏やかで優しい。「あなたが変わりたい、と思えるようになったきっかけは何だったの?」。そんな質問をどのぐらいの人に投げかけてきただろう。そして、彼/彼女らはきまってるように答えるのである。「LIFERSのおかげだよ」。



★ライフアーズとは

受刑者が300万人を超える米国。そこには現在13万人あまりのLIFERS(終身刑、もしくは無期刑受刑者)が存在する。彼らは殺人や強盗など「凶悪」な罪を犯し、「更生不可能」のレッテルをはられた人々であり、社会から忘れられた存在である。

更生施設「アミティ」では、カリフォルニア州の刑務所内プログラムで、そんなLIFERSを積極的に受け入れてきた。「なぜ犯罪を犯すようになったのか」。受刑者たちはこの問いに徹底的に向き合い、罪の償いを、新しい生き方を、模索していく。

LIFERSの一人は次のように語る。「釈放されるかどうかの問題ではなくて、受刑者である私たちは、自分のなかに作り上げた「牢獄」から解放される必要がある。たとえ刑務所から出られなくとも、変わるチャンスが与えられれば、今までの生き方にしがみつくなければなくなる。それに、いつの日か出られるかもしれない、という希望さえあれば、頑張らざるを得ないと思う」。

★暴力や犯罪にどう向き合えばいいのか——

「凶悪」な罪を犯したLIFERSとはどのような人たちのだろう。被害者に対してどのような思いでいるのか? 殺人のような取り返しのつかない犯罪に対する「償い」とは? 他の受刑者や外に暮らす家族との関係は? 甥のなかで一生過さねばならないかもしれないLIFERSにとって、日々の支えとは? また遺族にとって事件からの年月とは? 私たち社会は、暴力や犯罪にどう向き合えばいいのか。本作品は、このような幾つもの疑問から生まれました。

映像を通してLIFERSに出会い、暴力や犯罪に私たちそれぞれがどう向き合えばいいのかを、一緒に考えてみませんか?

——— 坂上 香 (LIFERS——終身刑を超えて) 監督・プロデューサー

※本作品では、仮釈放委員会や刑務所での様子を絡めながら、インタビューによって受刑者たちの心の内を引き出し、それらを丁寧に描いている。「LIFERS ライフアーズ——終身刑を超えて」は最初から最後まで見逃さない。

——— アノー・コッター
(ニューヨーク国際インディペンデント映画祭選考委員)

※「犯罪に厳しく!」というマントラを唱え、安易に募集をしようとする政治家が多いですが、対症療法的に刑務所を超満員にしても社会のためになるのかというと、大いに疑問です。この作品から何よりも強く伝わってくるのは、真の更生を目指す受刑者たちや、そんな彼らを支える人々の誠意。成果を挙げるのは大変ですが、こういった作品が少しでも彼らの努力の後押しになれば嬉しいです。一見他人事のように見えても、我々の子どもたちが安心して行動できる町づくりは、皆で犯罪の原因を理解することから始まるのだと思います。

——— ビーター・バラカン (音楽評論家)



「LIFERS ライフアーズ——終身刑を超えて」 2004/ドキュメンタリー/カラー/91分/ビデオ/日本
製作・配給: out of frame 協力: The Lifers 映画支援プロジェクト/AMITY Foundation/Neo P&T
プロデューサー・監督・編集: 坂上 香 (映画ジャーナリスト)
撮影: 南 幸男 (映画「自転車で行こう!」) 録音: 森 英司 (映画「ディスタンス」)
音楽: ロジャー・スコット・クレイグ (映画「ベリカン文書」) ナレーター: マヤ・ムーア (ジャーナリスト)

http://www.cain-j.org/Lifers/index_J.html

- ◆ 大人 1300 円 (前売り 1000 円) 高校生以下 800 円 (前売り 500 円)
- ◆ 前売り券取扱場所 鳥取県立博物館・とりぎん文化会館・産後ケアやわらかい風
- ◆ 共 催 鳥取県地域生活定着支援センター・鳥取市中央人權福祉センター・とっとり社会派シネマクラブ
- ◆ お 問 合 せ 電話 0857-22-6868 月~金曜日 9:00~17:00 (鳥取県地域生活定着支援センター)